

レコードプレーヤーも無くなって行く？ ヒルトンアンプの情報

10月17日 伊藤 達彦



HiltonアンプAC-100型

SD・RDの世界でも、少しずつデジタル化の波が押し寄せて来ています。SD音楽用の「ビニール」レコードを発売する数が激減しています。「コーラーしか買わない」特殊なレコードですので、レコードとしてプレスする会社も、現在ではアメリカであってもほとんど無いのです。

「レコードがあるからいいや！」では、もう立ち行かなくなって来ています。何しろ、SD・RD用アンプとして私たちの世界では名の通った「Hilton社」でも、小型のAC-100型の製造を中止！してしまったと言う情報です。

この情報を寄せてくださった「尾崎 隆敏」さんにお礼申し上げます。

尾崎さんは、ヒルトンアンプの日本での代理店となっています。

連絡先メール：ozakitac@mx2.ttcn.ne.jp

以下は、尾崎さんからのメール文です。



ヒルトン社では8月31日を以ってMicro-100型サウンドシステムを製造中止としました。同等品や改良品なども作らないとのことです。

なかなか理由が判明しませんでした。現在ソフトとしてビニールレコードが高く少なくなると、MD、CD、コンピュータを使うコーラー・キューアーが増え、ターンテーブルの使用頻度も減って、ヒルトン社としてのターンテーブルに対する在庫、維持管理等が大きな負担となり、Micro-100サウンドシステムの製造中止に至ったのです。

MA-150とMA-500は「プレーヤー部分が付いていないので」当然として、AC-205とAC-500の製造は続けるとのことであります。また、Micro-100のアフターサービスは引き続き行われますので、御遠慮なく尾崎まで御連絡ください。

スクエアダンス用の音源がMD、CD、コンピュータに移ってくると、例会やアニバで使う音響システムもヒルトンやヤックススタックばかりでなく、一般のPAグッズの中から自由に選ぶことが可能となり、コーラー・キューアーにも音響知識が今まで以上に求められることになりそうです。

8月に米国出張の折、TEXAS PO' BOYS がゲストのダンスへ行く機会がありましたが、サウンドはクラウン・レコードのボブ・ワーリーが担当し、ヒルトンAC-500とヤックススタックスピーカーの組み合わせでセットアップしましたが、TEXAS PO' BOYS の4人は各一人一人がワイヤレスマイクを使い、持ち込んだヤマハのプロが使う10数チャンネルのミキサーと、400ワット出力のパワーアンプをヤックスのスピーカーに接続変更していました。音源はMDでした。上に述べたことの一事例としてあげてみました。